

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2015年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2015（v.1.0）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)NISSHA会議棟他 新築工事	階数	地上4F
建設地	京都市中京区壬生花井町3番地(一部)、壬生天池町19番地1(一部)	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,100時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2018年2月19日
敷地面積	53,586 m ²	作成者	白崎 裕
建築面積	1,120 m ²	確認日	2018年2月19日
延床面積	3,582 m ²	確認者	白崎 裕



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 建物内部は利用者の健康・快適さ、外部は環境配慮を重視した設計になっている。		その他
Q1 室内環境 高い外皮性能を有し、利用者の健康・快適さに配慮した計画を行っている。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い部材を採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の緑化により、緑量の確保および暑熱環境の緩和に努めている。
LR1 エネルギー 設備システムの高効率化に努めている。	LR2 資源・マテリアル 節水型便器の採用による資源の浪費を抑えている。	LR3 敷地外環境 広告物照明の光の性質および省エネに関する配慮がなされ、光害の抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される